

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0 5 7 2 7 0 9 5 8 2
法人名	有限会社 一輝
事業所名	グループホーム 康々園
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字伊勢堂 8 4 - 1 (電 話) 0182-24-3721
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤 5 - 1 - 1
訪問調査日	平成 2 1 年 7 月 7 日 (火)

【情報提供票より】 (平成 2 1 年 6 月 2 0 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 6 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	1 8 人
常勤	1 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 1 6 . 6 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	320 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (6 月 2 0 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	3 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	3 名	要支援 2	名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	胃腸科内科 高橋クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家に囲まれて、地域に見守れながら時を刻んで定着してきたグループホームである。オーナー、管理者、職員が互いに信頼し合いながらより良いサービス提供のため日々努力されている。職員の姿勢が利用者の表情に現われており、穏やかな時間が流れている。開設して5年が経過して、重度化した利用者の生活も継続出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善課題は特になかったが、これまでの外部評価調査での改善については速やかに取り組みがされていた。今後も利用者の生活に必要な課題解決には積極的に取り組む姿勢である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員と共に自己評価を行い、課題解決の糸口としての取組みがされている。職員の意見を尊重しながらオーナー、管理者、職員がそれぞれの立場でサービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議にはオーナーと管理者、主任、介護支援専門員、横手市担当者、町内会長、駐在所の警察官が参加して開催されている。主な討議内容としては、利用者の現状、行事等について話し合っている。駐在所の警察官が参加することで災害時の連絡体制が整い、より良い効果をあげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	意見や苦情があった場合は、窓口を管理者として対応の統一を図っている。家族へは利用者一人ひとりの生活状況を毎月送付しているほか、3か月に1回の広報誌「あやめだより」を作成し併せて送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の方々の訪問は度々あり、ホームが毎年開催している納涼祭には近隣の子供からお年寄りまで参加していただいている。散歩に出かけるとお互いにあいさつしたり、畑の収穫を差し入れてくれたりと、開設して5年が経過して地域に開かれたホームとなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の介護理念を掲げ実現のために努力している。地域で暮らす事の意義を十分理解して日々の介護に活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室には理念が掲示され、職員は理念の実現を意識して日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々の訪問は度々あり、ホームが毎年開催している納涼祭には近隣の子供からお年寄りまで参加していただいている。散歩に出かけるとお互いにあいさつしたり、畑の収穫を差し入れてくれたりと、開設して5年が経過して地域に開かれたホームとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善が必要な時は速やかに対処してきた。職員がまず自己評価し、オーナー、管理者が評価した内容によりサービスの質向上の確保に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはオーナーと管理者、主任、介護支援専門員、横手市担当者、町内会長、駐在所の警察官が参加して開催され、利用者の現状、行事等話し合っている。駐在所の警察官が参加することで災害時の連絡体制が整いより良い効果を上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な時に連絡を取り合い、運営推進会議を重ねることで連携が取りやすくなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回請求書を送付する際に、利用者一人ひとりの健康状態や生活状況、小遣い帳確認等も併せて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情があった場合は、窓口を管理者として対応の統一を図っている。家族へは利用者の生活状況を毎月送付しているほか、3か月に1回の広報誌「あやめだより」を作成し併せて送付している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は何度かあったが、その都度説明して利用者への影響に配慮している。開設以来の職員も多く、馴染みの関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員それぞれの研修に積極的に参加出来るよう計画して実際に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や情報交換会には管理者、職員も参加してネットワーク作りに役立っている。常に連絡を取り合いサービスの質確保に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	事前の訪問やホームの見学を行い、何度か面談することで本人、家族が安心してサービスを受けられる支援と配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの思いに添い、家族の一員として接して学び合い、支え合う関係を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと職員が向き合い、常に意向を確認しながら関係構築に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で話し合いながら本人、家族の意見も取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決めて定期的な見直しを行い、状態が変化したときや見直しが必要となった時点で話し合い、計画変更がされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携を図りながら、重度化した利用者も生活が継続できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視して、協力医療機関の往診か、これまでのかかりつけ医かを選択してもらい必要な情報提供やアドバイスを基に看護師が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設して5年が経過し、重度化してもホームで今まで通りの生活が続けられる支援をしている。また、ターミナルケアも医療連携をとっている協力医と職員が共同で指針作りをしながら実践している。		今後更に利用者の重度化が予測されるので利用者本人の意向を確認し、暮らしの継続のためにホームの果たす役割も視野に入れた取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の話しかけは穏やかで利用者のプライバシーにも配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者へ一日の過ごし方の問いかけから始まり、希望に沿って見守り、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合った食事の準備、後片付けを自発的に行っている。職員は、一緒に行いながら必要に応じた支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴前には健康観察を行い、希望に応じた入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができることと支援が必要なことを見極めて能力に応じた役割を見出して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は日常的に行っており、毎日の買い物には利用者も一緒に出かけている。敷地内では栗の木が植えられている遊歩道付きの庭園が、利用者の憩いの場となっている。また定期的に外出の計画を立てて車での外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間は利用者の安全のため、玄関にカギをかけているが日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の住民と消防署の協力をもらいながら避難訓練を年1回行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を確認し、記録している。栄養バランスについては、調理師の資格を持つ職員が適切に献立作りや調理を担当している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者が居心地良く生活できるよう整理され、ホールには季節の飾りがされている。また、換気も十分されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具は使い慣れた物を持ち込み、仏壇や写真を飾ったりと利用者の思いがこもった居室となっている。		

※ は、重点項目。